

平成27年度(2015) 2学年SSHコース「理数課題探究」 清陵ルーブリックによる評価とその変化【調査7】

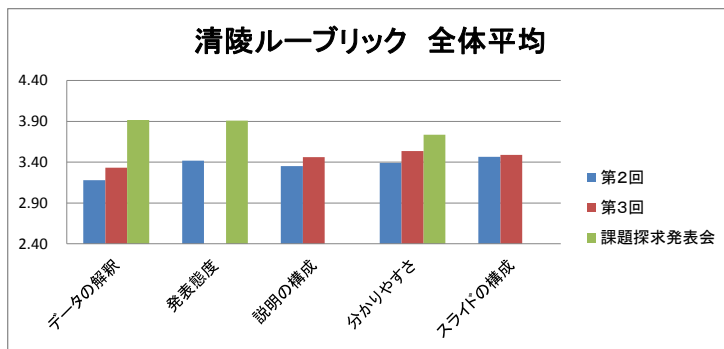
9月(第2回)、12月(第3回)中間発表及び2月(課題研究発表会)

2015 諏訪清陵高等学校SSH「理数課題研究」研究発表及び評価基準表(ルーブリック)

評価		5	4	3	2	1
		たいへんよい	よい	ふつう	もうすこし	がんばろう
探究内容に	データの解釈	得られた結果を精選し適切な図表にまとめている。そのうえで、多角的に考察を進め、適切な解釈を行っている。また、先行研究等のデータや考察と合わせて論考している。	評価5と4の間	得られた結果を精選し適切な図表にまとめている。データの分析には課題が残る。先行研究の調査にも課題が残る。	得られた結果を適切な図表にまとめている。そこで、データの分析、考察に課題が残る。	得られた結果を適切な図表にまとめている。考察が論理性に欠ける。先行研究の調査検討十分でない。
プレゼンに	発表態度	堂々とした態度で、言葉も明瞭で、聴衆を見ながら発表できる。発表者全員が研究内容を熟知し、誰が発表しても正確に研究を説明できる。	評価5と4の間	堂々とした態度で、言葉も明瞭であるが、原稿を見ながら発表している。研究内容を博しているものがグループの一部に限られている。	堂々とした態度で、言葉も明瞭であるが、質問に対しては的確に答えられないことがある。研究内容を博しているものがグループの一部である。	おどおどした態度で発表している。発表準備が不足している。
スライドに	分かりやすさ	目次、スライドごとにタイトルがあり、文章でなく適切な記述語からなる箇条書きとなっている。一枚のスライドに概ね1つのポイントが示されている。図表などを用いて、結果が視覚的に分かりやすい。	評価5と4の間	目次、スライドごとにタイトルがある。各スライドが文章で綴られておりポイントが分かりづらい。図表や写真を用いて、結果を示しており、視覚的には分かりやすい。	目次がなく一枚一枚のスライドが文章で綴られており、研究内容と結論が把握しにくい。適切な図表や写真が十分活用されていない。	目次やタイトルが無かったり、あったとしても内容と整合性がない。一枚一枚のスライドが文章で綴られており、研究内容と結論が把握しにくい。積雪な図表や写真を用いていない。

清陵高校課題研究評価基準ルーブリックについて

探究内容については、①課題の設定と仮説、②研究計画と実践、③データの解釈の三項目について、プレゼンテーションについては、①発表態度、②説明の構成、③質疑応答の三項目について、そして、スライドについては、①わかりやすさ、②構成の二項目について事前に評価項目を示して研究の指針としました。この1年間、4月に研究を始めて以来、途中、6月、9月、12月の3回の中間発表会と評価基準を用いた評価を仲間同士で行いながら今日の発表会を迎えました。2年生では評価4のレベルを目標にしています。



上記評価基準表を基準に5段階で評価した。

全体の平均では、各項目の評価が徐々に上がっている。データの解釈の評価の上昇率は他に比べて特に高い。

班別に評価の傾向を見ると、

- ・パターン①: 課題探求発表会の評価が大きく上回った(4班、5班)
- ・パターン②: 全体平均のように各項目の評価がそれぞれ同じように上がった(8班)
- ・パターン③: 評価が下がった班(6班)に大別できる

①特にデータの解釈で大きく評価が上がっている。実験データの分析・解析をもとにした発表ができたと思われる。

②は着実に研究や発表の力がついてきているのではないと思われる。

③は研究の内容自体が難解であったためと思われる。

